

島を離れて

一年 村井 恵子（平成四年度）

「もしもし、元気だが。」ときどき、姉から電話がくる。私の家族は七人だが、姉と兄は高校に通うため酒田に住んでいる。いままでずっと暮らしていた二人とも、三年前に姉とそして今年から兄とも離れ離れになってしまった。島でいっしょに暮らしていたころはけんかばかりしていたのに、今考えてみると、けんかもできないというのは、すごくさびしく、悲しいことだ。

姉たちの生活を助けるために、母と祖母が交替で酒田に行っている。だから、家族全員がそろっていることは、ますます少なくなつた。私は家族が離れて暮らすということは、こんなに切ないものだったとは思ってもいなかった。祖父も姉がいなくて私と同じような気持ちになるのだろうか。夕ごはんを食べ終わると必ずといっていいほど、酒田の家へ電話をする。祖父だけではない。きっと、父や母も同じだろう。

今、姉は、自分の就職のことでしょつ中電話をくれるが、私とはほとんど話さず、「お母さんと代わて。」という。私はその時、自分のことで大変なのはよく分かるが、私のことは見放されたような気持ちになる。話したとしても、欲しい物

をお願いするくらいで、なやみがあつても電話では言えなかつたりでほとんど話をしないで終わってしまう。だからなおさら酒田へ行くと、姉と話すことが多くなる。しかし、姉たちには会いに行けるのは、学校行事で行ったときや休みのときしかない。

島から電話をすると、家の人みんなで「次かわれの。」などといつて、結局全員が話すことになるのだ。でも、私はあまり話をしないので、よく姉にも「かわいぐね。」と言われる。それもまちがいでないけど、実際会って話した方が楽しいし、よくわかる。

兄が島から離れてから、私も兄も性格が変わつたような気がする。私は、何でも一人じめしてしまつたり、わがままになつたとよく言われる。でも、しばらく会っていないせいか、兄は明るくやさしくなつたと私は思う。いっしょに暮らしていたころは、いじめられて、けんかをして私のせいにさせられて、どうしてこの人が私の兄なんだろうと思うこともよくあつた。でも、今は『この人が兄でよかった。』と思うようになった。

去年ぐらいまでは、末っ子なんていやだと思つていたが、最近では姉や兄がいてよかったと心から思う。私のなやみを二人で聞いてくれてはげましてくれる。そんな二人が私は大好きだ。だから、離れ離れになつて、さみしくてたまらないときもある。でも、そんなふうにいつまで思つていても、兄

たちは帰ってこない。このままの生活になれていくしかないのだ。でも、そんな生活もあと二年半。二年半たったら、私も上の二人と同じように高校生になって島を離れていく。そう考えたらしいような悲しい感じがした。今までずうつと暮らしてきた飛島と離れるのはやっぱりさみしい。私か姉たちと別れたときと同じように、私か島を離れるとき、島の家に残る祖父や祖母もさみしいのだろうか。祖父は、よく私にいたずらしてくる。それも、姉が行ってからさみしくて、それで私とけんかして楽しんでいるそうだ。私は、最初はくやしかったけど、今なら分かる気がする。祖父は。「けんかもあと二年半が。」とよく口にするのだ。やっぱりさみしいんだなあと思った。

私か、今の生活に慣れるころには、私も島を離れることになる。さみしい思いより、がんばりたいという思いの方が大きくなれたらいいのに……と思う。